

多言語プレゼンテーション大会の第10回記念に寄せて

東京大学大学院教授 酒井邦嘉（言語脳科学）



ヒッポファミリークラブの多言語プレゼンテーション大会は、若者がホームステイや留学で得た体験を言語化し多くの人に伝える場として、さまざまな活動の中でもユニークな役割を果たしています。若者によるスピーチコンテストは数あれど、3つ以上の言語を1つの言語のようにスイッチしながら行うものは唯一無二でしょう。表面的にはいろいろな言葉に聞こえても、脳から見れば人間の言語は1つしかありません。自らの体験を通して複数の言葉を語るのは、とても貴重な機会だと思います。

自分の殻を破り広い世界へ飛び出そうとする姿に、いつも勇気をもらっています。それぞれのできごとや受け止め方はさまざまですが、海外での体験は特に鮮烈で、その蓄積が多くの人と共有できる確かな「経験」となります。回を重ねるごとにプレゼンテーションの技術も向上してきましたし、特にコロナ禍と重なるこの数年は、広く社会一般の問題に対しても意識を向ける姿勢がはっきりしてきたと感じます。

さまざまな地域で世界の均衡が崩れ、平和を維持することの難しさが浮き彫りになっています。相手に対するリスペクトを表すには、その人の言葉を使うのが一番です。ヒッポファミリークラブは、「人はみな同じ」という思いを大切にしながら、多言語活動やホームステイを通じた国際交流を実践しています。国境を越えて大きなファミリーになるという理想を世界に向けて発信することは、とても大切なのです。

略歴：1964年東京生まれの北海道育ち。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。1996年マサチューセッツ工科大学客員研究員を経て、2012年より現職。言語という究極の難問に脳科学の視点から挑んでいる。2021年3月、マサチューセッツ工科大学のスザンヌ・フリン教授と（一財）言語交流研究所による共同研究の成果「多言語習得の脳科学的効用」を発表。2015年の開始当初から多言語プレゼンテーション大会の審査員を務め、大会の企画運営に対する助言も行っている。